

1. 調査報告概要表

作成日 平成20年7月28日

【評価実施概要】

事業所番号	2671000038		
法人名	社会福祉法人 洛和福祉会		
事業所名	洛和グループホーム大山崎		
所在地	〒618-0091 京都府乙訓郡大山崎町円明寺稲葉1-5 (電話) 075-956-6351		
評価機関名	特定非営利活動法人 市民生活総合サポートセンター		
所在地	〒530-0041 大阪市北区天神橋2-1-21 八千代ビル東館9階		
訪問調査日	平成20年7月16日	評価確定日	平成20年8月26日

【情報提供票より】(平成20年6月1日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成 15 年 8 月 1 日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18 人
職員数	18 人	常勤 10 人, 非常勤 8 人, 常勤換算 13.8 人	

(2) 建物概要

建物構造	鉄筋コンクリート造り		
	2 階建ての	1 階 ~	2 階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	29,000~31,000 円	その他の経費(月額)	50,000 円	
敷金	有() 円 (無)			
保証金の有無 (入居一時金含む)	有() 200,000 円 無	有りの場合 償却の有無	有() 無	
食材料費	朝食	350 円	昼食	550 円
	夕食	700 円	おやつ	100 円
	または1日当たり		1,700円	

(4) 利用者の概要(6月1日現在)

利用者人数	18 名	男性	2 名	女性	16 名
要介護1	2 名	要介護2	6 名		
要介護3	5 名	要介護4	3 名		
要介護5	2 名	要支援2	名		
年齢	平均 85 歳	最低	75 歳	最高	98 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	京都府済生会病院、洛和音羽病院
---------	-----------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

洛和会ヘルスケアシステムのグループホームです。大山崎の豊かな自然と、静かな環境の中に立地し、隣には竹林があり、日本の馴染みの風景の中、利用者は心穏やかに、ゆっくりとした時を過ごされています。利用者同士は仲が良く、一緒に過ごす中で様々な話をしながら、共感し合える関係ができています。日常では、併設の法人施設での喫茶に頻繁に出掛け、地域の方々との交流を楽しみにされ、玄関横のスペースで外気浴をしながら季節を感じておられます。職員は有資格者が多く、豊富な研修を受講することで、知識や技術の向上をされています。職員同士も話し合いを重ね、共有の思いを持って協力しながらチームケアに取り組まれています。常に希望にそった支援ができるようにということを心がけ実践されています。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	前回の評価で確認した事に関し、職員間で意見を出し合い、ホーム独自の理念を作りました。職員の思いが同じであったことが改めて確認でき、自信にもつながっています。
重点項目②	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	今回の自己評価は、全員で意見を出し合いながら取り組みました。今までのケアを振り返り、自ら改善点を把握することができ、意義ある機会になりました。
重点項目③	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)
	利用者、家族、民生委員、地域包括支援センターの職員が参加する運営推進会議を2ヶ月に1回開催しています。ホームの取り組みや役割、入居情報、行事の話しをしたり、参加者からは様々な意見や地域の情報を教えて頂いています。
重点項目④	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)
	毎月、預かり金の収支報告を送付に際には、利用者の様子や状態を書いた手紙を同封しています。不定期ではありますが、ホームとしての独自の「たけのこ便り」を発行し、職員紹介や行事報告をし、家族からは好評を得ています。
重点項目④	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
重点項目④	囲碁やダンスのボランティアの受け入れや、子供会と合同でレクリエーションをしたり、古紙回収への協力、小学校の運動会を見に行ったりと、少しずつ交流が増えてきたところです。併設の法人施設で開かれている喫茶には頻繁に参加し、地域の方と交流しています。

2. 調査報告書

(部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	法人としての理念を玄関の掲示し、ホーム独自の理念としては、ホームを第二の我が家として過ごしていただけるようにとの思いを込めている。理念を考えたことで、全職員が同じ思いを持ってケアしていることが改めて確認できた。地域については触れられていない。	○	地域の中で、どのように暮していくのかを明確な文章にして明示することが望まれる。
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	理念の実践に向けてのケアを提供しているし、ユニットごとにも話し合う場を持っている。全員で考えた理念であり、思いが同じであることがケアの前提になっている。また、1年後にその時の状況に応じて理念の見直しを検討している。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	囲碁やダンスのボランティアの受け入れや、子供会と合同でレクリエーションをしたり、古紙回収への協力、小学校の運動会を見に行ったりと、少しずつ交流が増えてきたところである。併設の法人施設で開かれている喫茶には頻繁に参加し、地域の方と交流している。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	前回の評価で、話し合ったことを踏まえて、ホームで話し合い、今までのケアを振り返ることができた。今回の自己評価も全員で意見を出し合い取り組み、自ら改善点を把握することができ、意義ある機会となっている。		
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	利用者、家族、民生委員、地域包括支援センターの職員が参加する運営推進会議を2ヶ月に1回開催している。ホームの取り組みや役割、入居情報、行事の話しをしたり、参加者からは様々な意見や地域の情報を教えて頂いている。		

洛和グループホーム大山崎

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	法人としては密な連携があるが、ホームとしても、行政へ出向くようにしている。行政担当者がホームに来られることもあり、率直に話し合う場を持っている。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	毎月預かり金の収支報告を送付の際には、利用者の様子や状態を書いた手紙を同封している。また、来訪時には、サインをもらっている。不定期ではあるがホームとしての独自の「たけのこ便り」を発行し、職員紹介や行事報告をし、家族からは好評を得ている。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ホームの玄関には意見箱を設置している。ホーム側や行政の相談窓口も文書に明記している。意見や要望を聞いた時は、すぐに対応し職員で改善を話し合っている。ホームでの対応が難しい場合は、法人と協力して解決に向けて取り組むこともある。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	馴染みの関係作りに配慮し、継続したケアが提供出来るように考えている。やむを得ずの法人内異動の際には、ダメージが少ないように十分な配慮はしている。ユニット間では、絶えず顔を合わせ、顔見知りになれるようにしている。離職が少なくなるように、管理者が常に職員の話をしている。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部、内部とも多くの研修の機会を利用し、順次参加できるようになっている。受講した研修は、ホーム内での勉強会として伝達研修をし、報告書を資料と共に回覧して共有を図っている。学ぶ機会は多く、職員のステップアップにつながっている。年間の研修計画も充実し、職員の知識や技術の向上には、法人からのバックアップ体制が充分にある。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム協議会に参加し、年に4～5回の研修に参加している。親睦会もあり、意見交換したり情報をもたらしたりしている。法人内のグループホーム同士での交換研修もある。今後は、他法人のグループホームにも見学へ行きたいと考えている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	入居前に見学に来て頂き、他の利用者と一緒にお茶の時間を過ごす中で雰囲気をみたり、ホーム側から訪問したりして今までの生活環境を把握している。今のところ事例はないが体験入居できる体制もある。本人の思いを受け止め、コミュニケーションを図りながら接していく中で、慣れ親しんで頂けるようにしている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	家事を一緒に行ったり、ゆっくりとした時を過ごす中で、日本の風習や、しつけを教わったり、職員の悩みを聞いてアドバイスを下さったりと、人生の先輩として様々な場面でお知恵を拝借しながら、共に生活している。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者一人ひとりの気持ちに添って、ケアすることを心がけている。意思確認が困難な方には、表情や行動で把握し、カンファレンスで話し合っている。利用者同士の会話の中から思いが把握できることもある。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	センター方式にてアセスメントし、長期目標、短期目標を記載し、ホームでの生活に密着した計画を立てている。家族や、本人の意見も取り入れている。センター方式から独自の24時間記録シートを作り、それを使用しながら計画と日常のケアにずれがないかを見極めている。往診医や看護師の意見も反映している。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	3ヶ月に一度の見直ししている。カンファレンスを開催し職員で話し合い、計画の評価を行い、再アセスメントにつなげている。カンファレンスに出席できない職員には前もって意見を聞いている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	馴染みの美容室への送迎や、通院介助、希望があれば職員との一対一での個別外出で買い物やドライブ、外食の支援をしている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ほとんどが、入居前からのかかりつけ医が続いている。提携病院からは往診が月に2回あり、緊急時には、24時間連絡体制があり、すぐの対応も可能である。看護師も週に1回来訪し、利用者の健康管理をしている。また、訪問歯科や衛生士が来訪し希望や必要な時があれば往診に来てもらえるよう支援している。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	法人としてのターミナル指針については家族の同意を得ており、意向についてもあらかじめ把握している。今のところ事例はないが、その時になれば、家族や主治医、看護師と相談の上、ホームで緩和ケアをするかどうか話し合い、受け入れが出来る状態であれば、ホームで最期を看取りたいと考えている。職員は看取りについての研修も受講している。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	プライバシーには十分に配慮し、利用者の誇りを損なうことのないように心がけている。職員間では、不適切な場面がみられた時は、その場で注意し合う関係ができています。個人情報保護の観点から、記録物は事務所に適切に保管している。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	常に希望を聞きながらケアしている。毎日のおおまかな流れはあるが、就寝時間や起床時間は自由であり、買い物や散歩も、行きたいと思われた時に行けるようにしている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	その日の献立はその日に考え、調理、食事、後片付けを、利用者と一緒にしている。食材の買い物時には、広告を見ながら献立を考えることもある。職員も同じ物を食べながら一緒に食卓を囲むことで、利用者のペースを把握している。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	午前から、夕食後まで好きな時間にゆっくりと入浴してもらっている。拒否のある方には、タイミングを見計らって声かけしている。皮膚疾患の状態や、安眠を促す為に夜間に足浴を行っている。季節に応じて菖蒲湯や柚子湯を提供し、利用者から喜ばれている。		
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	センター方式を利用して情報収集しており、把握している生活歴を活かし、今までの趣味を継続できるように支援している。音楽好きの方が多く、カラオケをしたり、クラシックのコンサートに出掛けたりしている。また、嗜好品の提供もしている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	外へ行きたいと思われた時には、出掛けられるような支援をしている。散歩や買い物での外出は多くあり、希望の時間にいけない場合は、納得して頂けるように話をしている。季節に応じた年間の行事計画をたて、外出の機会を持っている。家族の参加する行事も予定している。		
(4)安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	日中は鍵を掛けずに自由な暮らしを支援している。見守りを重視することで、家族からも支援を頂いている。ホーム玄関横にはバルコニー風のコーナーを設けてあり、利用者は自由に出入りされている。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	年に1回、消防との協力で避難訓練を行っている。ホーム独自では、2ヶ月ごとに様々な場面を想定し訓練している。併設の法人施設との協力関係はできているが、地域との関係は今後の課題である。	○	運営推進会議等を通して、地域の方と話し合い働きかけられることを期待する。一緒に避難訓練をする等の声かけをされてはどうでしょうか。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	<p>○栄養摂取や水分確保の支援</p> <p>食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている</p>	<p>法人の栄養士に、献立をチェックしてもらいアドバイスをもらったり、勉強会に参加している。ホームでは、おやつを含め毎食、検食をして味、量、バランスをチェックし所見欄に残している。併設の施設の献立を参考にすることもある。食事摂取量は毎回、水分摂取量は必要な方の記録を残している。摂取困難な方には、とろみをつけたり、ムース状にしたり、キザミやミキサー食で対応している。</p>		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	<p>○居心地のよい共用空間づくり</p> <p>共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>広いリビングでは、ついたてや棚を利用して間仕切りし、それぞれの居場所を確保し落ちついて過ごせるよう配慮している。2階のサンルームからは隣の竹林が見え、心が和む風景がある。</p>		
30	83	<p>○居心地よく過ごせる居室の配慮</p> <p>居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>以前からの使いなれた馴染みの物やこだわりの物を持ってきてもらい、その人らしい居心地の良い居室作りをしている。混乱される方には、必要でない物を片付けながら、自分の居室という認識を持って頂けるように支援している。</p>		